

新星(しんせい)

登録番号：第526号

登録年月日：昭和59年3月19日

登録者：農林水産省果樹試験場（
くば市藤本2-1）

育成者：梶浦実 金戸橋夫 町田
裕 佐藤敬夫 志村 勲

千葉 勉 小崎 格 清家

金嗣 梶浦一郎 岸本 修

佐藤義彦

来歴：「翠星」と「新興」の交雑実生。

特 性

■栽培特性

樹姿はやや開張性で、若木時代の樹勢はやや強いが、成木では中程度である。展葉前の幼葉の裏面、とくに中肋および葉柄に黄色の毛じが密生するのが本品種の特徴である。開花期は「新高」とほぼ同じで早く、「豊水」より2～3日、「幸水」より約5日早い。花粉は「長十郎」に比べるとやや少ないが、健全で、「新興」と交配不適合性を示す以外には、他の主要品種とは和合性である。

関東地方中部での成熟期は9月下旬で、命名当時は「豊水」より10日遅いとされたが、その後徐々に早まる傾向がみられ、現在では「豊水」とほぼ同じ成熟期となっている。

黒斑病には抵抗性で、普通の赤ナシの防除歴に従っていれば黒星病に対してもとくに支障はない。えそ斑点病ウイルス感受性を示す。

■果実特性

果実の形は楕円～円形で、蒂端部がやや細くなりがちで、リンゴの「テリシャス」に似た果実が混在する。有蒂果が多いが、その割合は環境条件により変化する。また有蒂果と無蒂果の間に品質の差異は認められない。1果平均重は約350gで「新高」、「新興」、「豊水」よりも小さい。果皮の色は赤褐色で、果点は密に分布する。果肉は黄白色で、肉質は軟らかく、緻密である。果汁は多く、甘味は「豊水」程度、酸味は「豊水」より少ない。

果実の日持ち性は2週間程度で、この時期の品種としては普通である。芯腐れ、みつ症状、裂果の発生はほとんど見られないが、ユズ肌症は土地条件によっては発生しやすい。収量は「新高」よりは低い、「幸水」よりは多収性である。

■栽培上の留意点

「新高」と同様に開花期が早いので、晩霜常襲地帯での栽培には適さない。ユズ肌症、胴枯病、凍害などの点から地下水位が高い園や乾湿差の激しい園には適さない。えそ斑点病ウイルスに感受性なので高接ぎ更新にあたっては予め台木、中間台の保毒状況を検定する。

■地域適応性

ナシ栽培地帯の全域に適応する。本品種は酸味が少なく、「豊水」に比べて品質が安定しているため、とくに関東地方中部以北などで、「豊水」の品質が不安定になりがちな地域では、本品種が有利と思われる。

(壽 和夫)